

BEAUTY FROM THE INNER



三味線・尺八・エレクトーンが織りなす新しい響き

和響×鍵響



2025年 8月3日(日)
15:30開場 16:00開演
茨木市市民総合センター (クリエイトセンター)
センターホール
TICKET ¥5500 当日¥6000 (全席指定)

※ご購入済チケットの紛失による再発行はできません。※未就学児のご入場はご遠慮ください。
※会場内でのご飲食、許可の無い撮影及び録音等の行為は禁止されています。
※公演は、中止または変更になる場合がございます。予めご了承ください。

☎ 090-6988-0882(菊池)

✉ lena.electone@gmail.com

☎(公財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (10:00-17:00)

財団チケットカウンター(クリエイトセンター1F)

インターネット予約

<https://shop.yksonic.com>

<https://www.ibabun.jp>



主催/ムセイオン音楽協会 企画制作/神田将楽事務所

後援/(公財)茨木市文化振興財団

協賛/ナリス化粧品

協力/ヤマハエレクトーンシティ

茨木市文化振興財団活動発展助成対象事業





辻本好美 YOSHIMI TUJIMOTO

和歌山県橋本市出身

2010年 東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻(琴古流)卒業

2014年 和歌山県橋本市より2014年度文化奨励賞を授賞

2020年 和歌山県文化奨励賞、大桑文化奨励賞を授賞

これまでに笑福亭鶴瓶、木梨憲武、ももいろクローバーZ、細川たかし、新沼謙治、福田こうへい、伊藤多喜雄他のバックサポートはじめ、2016年に「Bamboo Flute Orchestra」として初の女性ソロ尺八奏者としてメジャーデビュー、「SHAKUHACHI」をリリース。2019年には第3回野口英世アフリカ賞授賞式にて天皇皇后両陛下はじめ、各国首脳陣の前にて演奏の名誉を賜る。

数少ない女性尺八奏者として、尺八の奥深い魅力と可能性を日本から世界へ発信、伝統楽器をもっと身近に...という想いの下、多方面で活動中。

【海外活動歴】

イタリア・フランス・スペイン・ドイツ・アメリカ・韓国・中国・パナマ・キューバ・エルサルバドル・アルゼンチン・チリ・ブラジル・ペルー・ベトナム・インド・メキシコ・カザフスタン・モザンビーク共和国・ニュージーラン

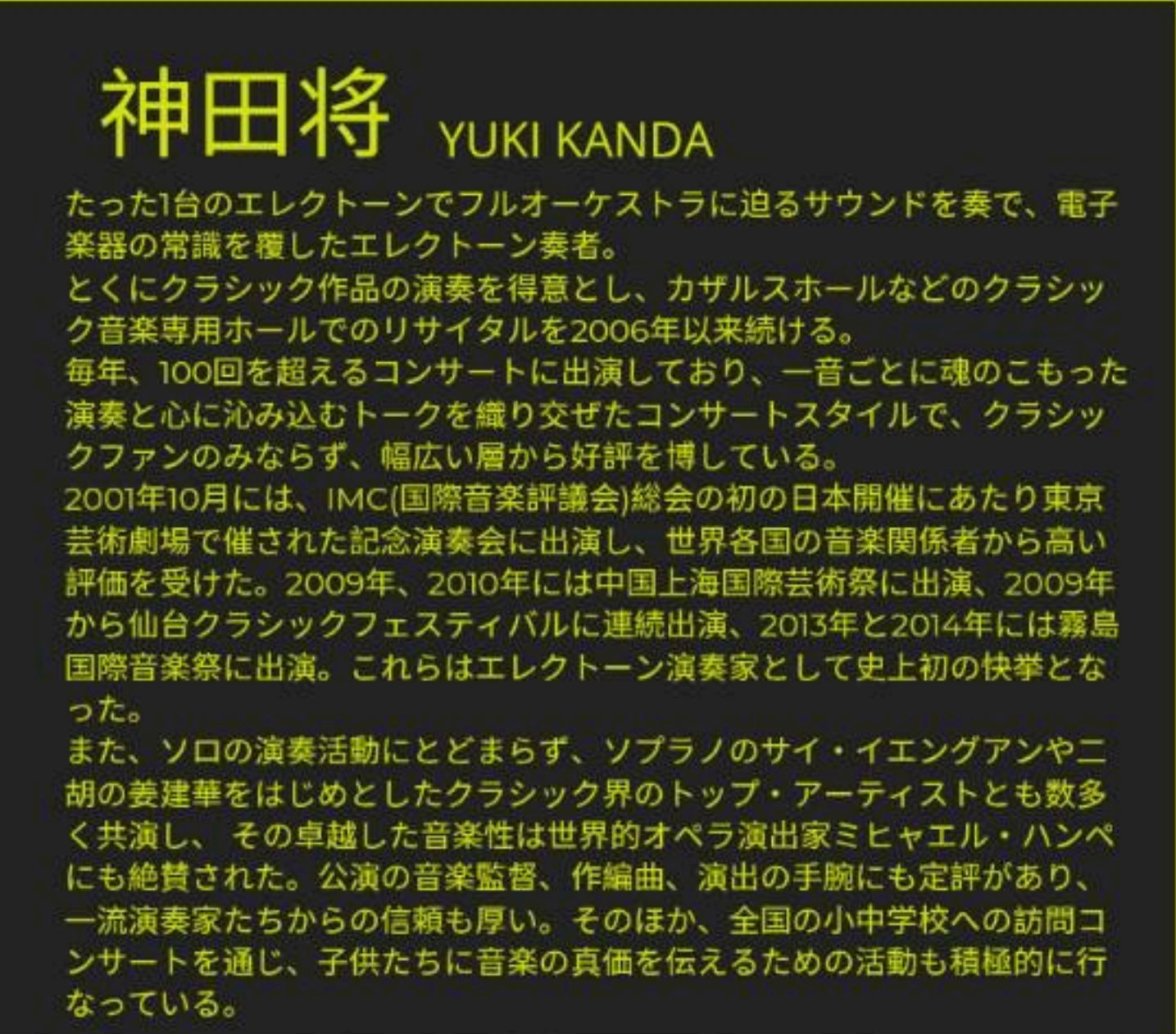
<http://www.443tsujimoto.com/>



浅野祥 SHO ASANO

宮城県仙台市出身 1990年生まれ 慶應義塾大学 卒業

祖父の影響により、3歳で和太鼓、5歳で津軽三味線を始め、三絃小田島流二代目小田島徳旺氏に師事。2004年 津軽三味線全国大会最高峰のA級で最年少優勝、2006年まで連続優勝3連覇を達成、同大会の殿堂入りを果たす。2007年17歳でビクターエンターテインメントより「祥風」でメジャーデビュー。以降、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、アジア各国でコンサートツアーを行うなど、海外に向けても積極的に発信する。そのジャンルにとらわれない演奏スタイルにより、石川さゆり、山下洋輔、宮沢和史、yamaなど、様々なアーティストとの共演を果たす。和楽器奏者としては初めて日本最大級の音楽フェス『MONSTER baSH』に3年連続で出演、その他様々なロックフェスやジャズフェスに出演。近年では「日本遺産×芸能」をテーマに掲げる文化庁主催『NOBODY KNOWS』に参加、日本文化の掘り起しや普及にも積極的に取り組む。また、日本各地の民謡を現代の感覚で作編曲する「MIKAGE PROJECT」や複数の邦楽演奏家からなる「ART歌舞伎楽団」に参加し、新たな音楽シーンを切り拓いている。日本屈指の三味線メーカーである三絃工房と、2023年に三味線奏者としては世界初のエンドースメント契約を締結。これら国内外に向けて日本の伝統文化である津軽三味線の魅力を発信していく活動が認められ令和元年より政府公認「beyond2020」の承認事業プログラムに正式決定、本来の民謡、古典芸能の追及はもちろんのこと、幅広い世代に三味線の魅力を伝えるべく、津軽三味線の可能性を追い求める孤高の若き津軽三味線奏者である。



神田将 YUKI KANDA

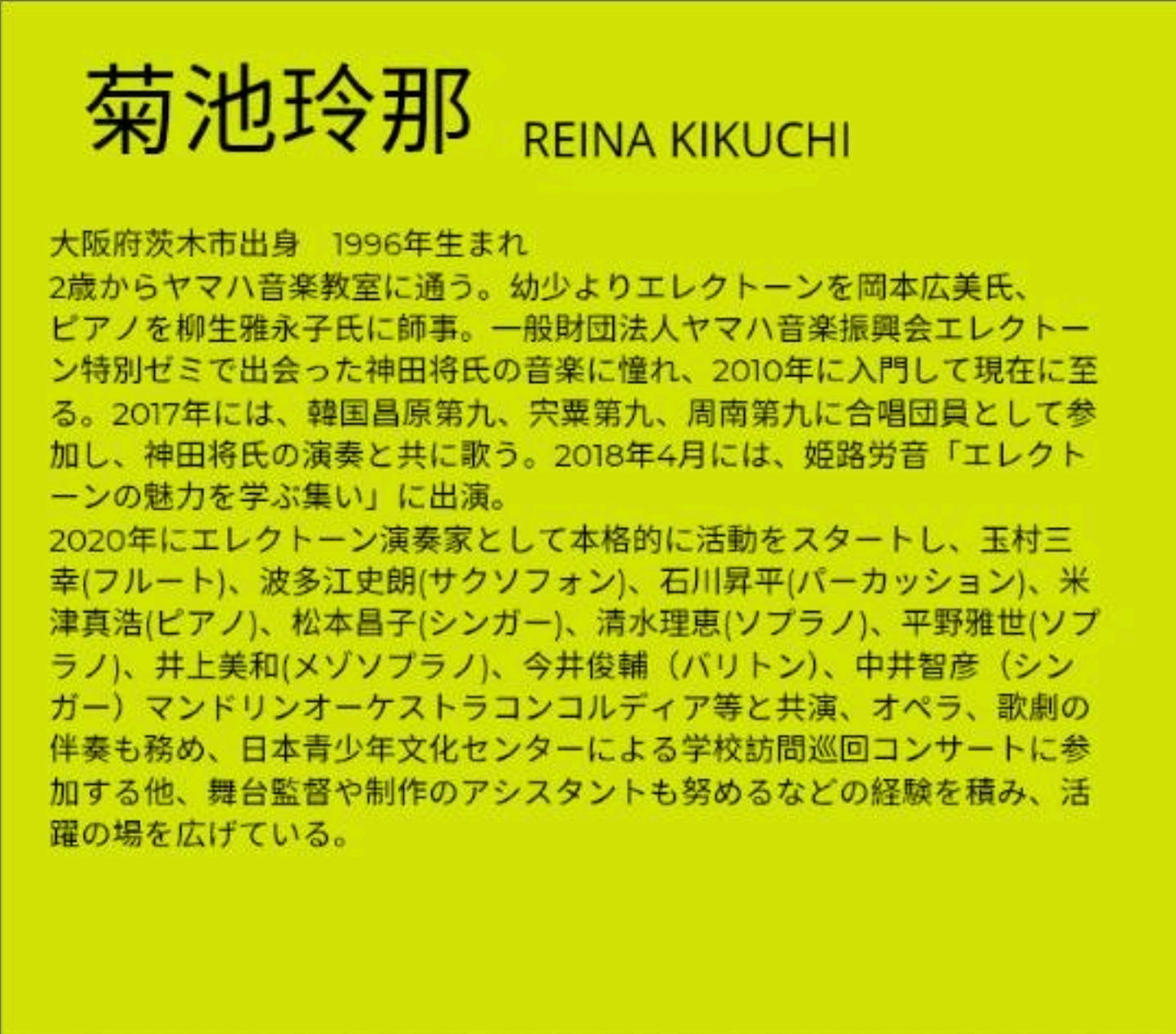
たった1台のエレクトーンでフルオーケストラに迫るサウンドを奏で、電子楽器の常識を覆したエレクトーン奏者。

とくにクラシック作品の演奏を得意とし、カザルスホールなどのクラシック音楽専用ホールでのリサイタルを2006年以来続ける。

毎年、100回を超えるコンサートに出演しており、一音ごとに魂のこもった演奏と心に沁み込むトークを織り交ぜたコンサートスタイルで、クラシックファンのみならず、幅広い層から好評を博している。

2001年10月には、IMC(国際音楽評議会)総会の初の日本開催にあたり東京芸術劇場で催された記念演奏会に出演し、世界各国の音楽関係者から高い評価を受けた。2009年、2010年には中国上海国際芸術祭に出演、2009年から仙台クラシックフェスティバルに連続出演、2013年と2014年には霧島国際音楽祭に出演。これらはエレクトーン演奏家として史上初の快挙となった。

また、ソロの演奏活動にとどまらず、ソプラノのサイ・イエングアンや二胡の姜建華をはじめとしたクラシック界のトップ・アーティストとも数多く共演し、その卓越した音楽性は世界的オペラ演出家ミヒャエル・ハンペにも絶賛された。公演の音楽監督、作編曲、演出の手腕にも定評があり、一流演奏家たちからの信頼も厚い。そのほか、全国の小中学校への訪問コンサートを通じ、子供たちに音楽の真価を伝えるための活動も積極的に行っている。



菊池玲那 REINA KIKUCHI

大阪府茨木市出身 1996年生まれ

2歳からヤマハ音楽教室に通う。幼少よりエレクトーンを岡本広美氏、ピアノを柳生雅永子氏に師事。一般財団法人ヤマハ音楽振興会エレクトーン特別ゼミで出会った神田将氏の音楽に憧れ、2010年に入門して現在に至る。2017年には、韓国昌原第九、大田第九、周南第九に合唱団員として参加し、神田将氏の演奏と共に歌う。2018年4月には、姫路労音「エレクトーンの魅力を学ぶ集い」に出演。

2020年にエレクトーン演奏家として本格的に活動をスタートし、玉村三幸(フルート)、波多江史朗(サクソフォン)、石川昇平(パーカッション)、米津真浩(ピアノ)、松本昌子(シンガー)、清水理恵(ソプラノ)、平野雅世(ソプラノ)、井上美和(メゾソプラノ)、今井俊輔(バリトン)、中井智彦(シンガー) マンドリンオーケストラコンコルディア等と共演、オペラ、歌劇の伴奏も務め、日本青少年文化センターによる学校訪問巡回コンサートに参加する他、舞台監督や制作のアシスタントも努めるなどの経験を積み、活躍の場を広げている。